

# 支那及日本ノ人口論

同志社大學教授

瀧本誠 一

西洋ニ於ケル經濟學者ノ人口論ハ唯今此席ニ於テ諸先生方ノ述ヘラレマシタ通り、社會經濟學上ノ大問題デアリマス、我國ニ於キマシテモ、明治維新後、歐米ノ經濟學ガ輸入サレマシテ以來ハ、往々之ヲ研究スル者ガ現ハレマシタガ、其ノ以前ニ在ツテハ、此ノ問題ハ、殆ンド閉却サレテ居ツタモノデアアル、否、閉却サレテ居ツタノデハナイ、人口ノ事ハ、政治家ハ勿論、學者ナドモ大ニ注意ヲ拂ヒ、國家ノ重要問題ト認メテ居ツタモノナレドモ、今日ノ人口論、即チ經濟學者ガまるざすヲ中心トシテ、討論シツツアル人口論トハ、少シク其ノ論旨ヲ異ニシテ居ツタノデアアル、西洋ノ人口論ハ、人口ノ蕃殖ガ、其ノ食料ノ増加ニ對スル關係如何ノ問題ナレドモ、我國否東洋ノ人口論ハ、斯クノ如キ經濟上ノ打算ニ出テタルモノニアラズ、専ラ主トシテ行ハレタルハ、一ハ迷信的ノ傳説ト、他ノ一ハ國家ノ必要ニ應スルニ足レルヤ否ノ問題デアツタノデアアル、故ニ西洋ノ人口論ト、東洋ノ人口論トハ、全ク正反對ノ結論ヲ來シ、西洋ニテハ人口ノ多キヲ患ヘテ、制限ニ腐心シ、東洋ニテハ人口ノ少キヲ患ヘテ、蕃殖ヲ獎勵シタノデアアル。

勿論西洋ニ於テモまるざす以前ノ人口論ハ、東洋流ノ論旨ガ主デアツテ、矢張人口ノ蕃殖ヲ以テ、一國繁榮ノ兆候トナシ、盛ニ之ヲ獎勵センコトヲ主張シタモノデアアル、まるざすヨリ百五六

十年前、伊太利ニぼてろート云フ人アリテ、此ノ人ハまるざすノ説ト、殆ト同一ノ説ヲ前言シ、又佛國ノみらばー、瑞西ノへるれんしゅわんと等モ、亦まるざしやん説ノ前言者デアル、然レドモ此等ハ固ヨリ例外デアツテ、實際まるざす以前ノ人口論ハ、東洋ノ人口論ト、大體同ジ様デアツテ、多クノ學者ハ、人口ヲ蕃殖スルヲ以テ、爲政家ノ義務デアルト信ジテ居ツタモノデアル、故ニ私カ此ニ述ベマスル人口論ハ、まるざす以後ノ人口論トハ、大ニ其ノ趣ヲ異ニシテ居ルノデアル。

支那ノ人口論ノ根本思想ハ、何デアルカト申シマスレバ、周禮大司徒ノ職掌ニ、以ニ保息六、養三萬民ト云フコトアリ、是レハ人民ヲ安集蕃息スルコトヲ掌ルノデアツテ、人口ヲ増殖スルハ、王制ノ一大目的デアアル、故ニ先王ノ遺制ヲ祖述セラレタル孔子様ノ御言葉ニモ、庶、富、教ト云フコトアリ、庶トハ庶民ナドノ庶ノ字ニテ、モロモロト訓ミ、人口ノ蕃殖ヲ意味スルノデアル、富トハ富マスコト、教トハ教ユルコトデアアル、此ノ御言葉ノ本文ハ、論語ノ子路ノ篇ニアリ、子適レ衛、冉有僕、子曰庶矣哉、冉有曰既庶矣、又何加焉、曰富レ之、曰既富矣、又何加焉、曰教レ之トアリ、即チ之カ庶富教ノ出處デアアル、ソコデ孔子様ガ、此ノ三事ヲ以テ、聖道ヲ實地ニ行フノ要旨ト定メラレタルハ、何故ナル乎、庶ヲ三事ノ初メニ置キ、人口ヲ蕃殖セシムルヲ以テ、聖門ニ入ルノ第一着手トセラレタルハ、何故ナル乎ハ、稍々複雑ノ問題ニシテ、其ノ一半ハ純乎タル支那哲學ノ研究範圍ニ屬シ、他ノ一半ハ經濟發達史上ノ事實問題ニ關聯スルモノニシテ、之ヲ解決スルニハ、更ラニ詳細ニ涉ツテ、論述スルノ必要アレバ、此ノ點ハ且ラク他日ノ問題トナシ、兎ニ角支那ノ大聖人タル孔子様ノ教訓トシテ、人口ノ蕃殖ニ、最先ノ重キヲ置カレタルコトハ、争フ

可ラザル事實デアリマシテ、而カモ同國億萬人ノ尊信スル經典中、最モ醇正ナル「論語」ノ中ニ  
現ハルル御言葉ナレバ、如何ナル學者ニテモ、亦政治家ニテモ、決シテ之ニ向ツテ異議ノアルベ  
キ筈ハナカツタノデアル、元來支那ニ於テ、一般ニ多大ノ勢力ヲ有スル學說、即チ經學者ノ說ハ、  
西洋ノ學說トハ、全然其ノ性質ヲ異ニシ、眞理ヲ研究スルトカ、原則ヲ發見スルトカ云フ様ノコ  
トデナク、極メテ單純ナル既定ノ教理、即チ聖人ノ述ベラレタル言辭ヲ、其儘ニ信用スルダケ  
ノ事デアツテ、勿論其ノ意見ノ是非利害ヲ論議スルモノニアラズ、其ノ學問上ニ於ケル本分ハ、  
古書ノ言辭ヲ解釋シテ、聖人ノ眞意ヲ知得スルト云フダケノコトデアツテ、爭議ノアル所ハ、唯  
タ古書ノ言辭ノ解釋如何ニアルノデアル、故ニ字義ノ明白ニシテ、解釋ニ難カラザル點ハ、何人  
モ之ニ對シテ、反對ノ意見ヲ挾ム者ナク、何レモ當然ノコトトシテ、之ヲ遵奉スルノデアツテ、  
其ノ狀、宛モ宗敎家ガ「ハイブル」ヲ遵奉スルト同シトデアアル、ソコデ夫ノ論語ノ中ニ現ハルル孔  
子様ノ御言葉ナルモノハ、其ノ言辭ノ不明ナルモノニ付キテハ、解釋上種々ノ爭議アルニ拘ハラ  
ズ、意義ノ明瞭ニシテ、左マデ疑點ヲ容ルル餘地ナキモノ、即チ此ノ庶富教ノ一章ノ如キハ、支  
那經學者ノ中ニハ、深ク其ノ理非ヲ研究スル者モナク、殆ド皆之ニ盲從シテ、人口ノ蕃殖ヲ圖ル  
ハ、聖道ニ適ヘルモノト信シテ居ツタノデアル、是レ私ガ支那ニ於ケル人口論ハ、迷信的ノ「トラ  
ジション」ニ基クト云フ所以デアアル。

然ルニ彼ノ經學者等ガ、事功學者トシテ、常ニ蔑如シ居タル反對派、就中永嘉學派ニ屬スル人々  
ハ、密タ孔子ノ遺意トシテ、人口蕃殖ノ必要ヲ主張シタルノミナラズ、他ニ政治經濟上ノ意味ニ於

テ、大ニ之ヲ是認シテ居ツタモノデアル、即チ國家ノ富強ヲ期スルト云フノ點ヨリ觀察シタル人口論デアル、今此ニ此等ノ思想ヲ喚起シタル一ツノ事實ヲ掲ケマスレバ、夫ノ越王勾踐ガ吳ニ打倒シテ、會稽ノ耻ヲ雪ガントテ、國ニ歸ツテ銳意、富強ノ計ヲ畫シ、ソレニハ先ヅ第一ニ、人口ノ蕃殖ヲ急務ト認メ、乃チ國中ニ令シテ、女子十七ニシテ嫁セザレバ、其ノ父母ヲ罪シ、丈夫二十ニシテ妻ラザレバ、其ノ父母亦罪アルベシトシ、甚ダシキハ人民ノ多キヲ欲スルガ爲メニ、國中淫佚ノ風ヲ禁セザルニ至ツタノデアル、(顧炎武日知錄) 是レハ拿破侖翁戰爭ノ當時、英國ニ於テ多大ノ兵士ヲ必要トシタル爲メ、時ノ宰相びつとガ、從來久シク行ヒ來リタル人口制限ノ方針ヲ、俄カニ變更シ、保護金ヲ給與シテ早婚ヲ獎勵シ、勞働者ノ賃銀ハ、其ノ子供ノ多少ニ從ツテ拂ハシムル様ノ政策ヲ實行シタト、同ジ事實デアツテ、斯クノ如キ場合ニ、政治家ガ常ニ多數ノ人民ノ需用ヲ感シタルハ、勢ノ然ラシメタルモノデアル、且ツ又國家ハ斯クノ如ク、單ニ多數ノ兵士ヲ得ンガ爲メノミニアラズ、財源ヲ充實スルノ目的ニ依テ、人口ノ獎勵ニ苦心シタルコトナキニアラズ、人口減少ノ結果ハ、必ス田畑ノ荒廢ヲ來サザルヲ得ズ、田畑ノ荒廢ハ、土地ノ生産物ヲ唯一ノ財源トシタル當時ニ在ツテハ、直接國庫ノ收入ニ、多大ノ影響ヲ蒙ラシムルヲ以テ、財政上ヨリ之ヲ觀察スレバ、人口ノ多寡ハ、國家ノ大問題デアツタノデアル、故ニ此等ノ事情ヨリシテ、支那ノ經濟學者ハ、人民ヲ以テ國家ノ目的ヲ達スル機械ノ如クニ見做シテ、大ニ其ノ蕃息ヲ希望シテ居ツタノデアル、國家ノ富強ヲ圖ルニハ、是非トモ莫大ノ人民ヲ有セザル可ラズト云フノ意見ヲ主張シタモノデアル、管仲ノ説ヲ纂集シタル管子ト云フ書ニ、「地大國富、人衆兵強、此則

王之本也」トアリテ、國家ノ領域ヲ廣ゲ、之ヲ富マシ、之ヲ強クスルニハ、兎ニ角多數ノ人民ヲ必要トスルコトヲ説キマシタノハ、全ク如上ノ思想ニ基キタルモノデアツテ、支那ノ所謂ル事功學者、即チ經濟學者ハ、概ネ皆此ノ管仲ノ意見ヲ敷衍シタルモノデアアル、例ヘバ永嘉學派ノ山斗タル葉適ハ、其ノ「進卷民事篇」ニ於テ、「爲國之要在於得民、民多則田墾、而稅增、役衆而兵強、田墾稅增、役衆兵強、則所爲而必從、所欲而必遂、是故昔者戰國相傾、莫急於致民」云々ト云ツテ、國庫ノ充實ノ爲メニ、人口増殖ノ必要ヲ説ヒテ居ルノデアアル、而シテ此等ノ思想ハ、當時支那ニ行ハレタル一般ノ思想デアリマシテ、後來國家ノ富強ヲ企圖セルモノハ、何レモ皆大體ニ於テ、之ト大同小異ノ意見ヲ、主張シタルモノデアアル。

以上述ベマシタ所ニ依ルト支那ノ人口論ハ、聖人ノ教、即チ王道ヲ説クモノガ周禮ノ王制ト孔子ノ庶矣哉ノ御言葉トヲ根據トシテ割出シタル思想ト、管仲ノ如キ霸道ヲ主張スルモノノ思想ト、截然二ツニ區別シ得ルカ如ク思ハルルノデアアル、即チ孔子ノ徒ハ、純乎タル人道ノ上ヨリ、人民ノ蕃息ヲ喜ビ、管仲ノ徒ハ、國家ノ富強ヲ圖ルノ道具トシテ、多數ノ人口ヲ必要トシタノデアアル、支那ノ文辭ハ、元來多ク美文のデアツテ、意義ノ明瞭ナラザル所アリ、殊ニ私共ノ如キ漢學ノ素養ナキモノニハ、ハツキト通解シ難キ所アレドモ、兎ニ角孔子ノ徒即チ經濟學者ハ、一般ニ人間ソノモノノ爲メニ、種族ヲ蕃息スルヲ、天道ニ適ヘルモノトシ、管仲ノ徒即チ事功學者ハ、國家ヲ富強ニスル手段トシテ、人口ヲ獎勵シタノデアツテ、其ノ間天淵ノ差異アルガ如クナレドモ、要スル所、其ノ人口ノ蕃殖ヲ希望シ、之ヲ獎勵スルヲ以テ、爲政家ノ義務トシタルノ一點ニ

至テハ、全ク一致シテ居ルノデアル。

サテ支那ニ於ケル學者ノ人口論ハ大略斯クノ如キモノデアツテ、人口蕃殖ノ結果、父子共ニ生計ノ困難ニ陥ルコトナカリシカ、社會ニ貧民ガ増加スル恐れハナカリシカ、ト云フノ問題ニ對スル時ハ、彼等ハ皆、西洋ニ於ケルまるざる以前ノ學者ノ如ク、社會ニ貧乏人ノ多キハ、人口過多ノ結果ニアラズ、一ニハ遊民ノ多キト又一ニハ土地ノ分配宜シキヲ得ザルノ結果トナシタルノデアル、人口剰多ニシテ食料ノ増加ニ伴ハズト云ヘルガ如キコトニハ、少シモ思ヒ至ラザリシノミナラズ、彼等ノ中ニハ、人口ト食料ヲ生産スル土地トハ、自然ニ相調和スルモノト、信ジテ居ツタモノモアル、現ニ程子ノ如キハ或謂、今人多地少、不<sub>レ</sub>然、譬<sub>ニ</sub>諸草木、山上著<sub>ニ</sub>得許多、便生<sub>ニ</sub>許多、天地生物、常相稱、豈有<sub>ニ</sub>人多地少之理<sub>一</sub>云々 (二程全書) ト云ヒテ、一種ノ樂觀的思想ヲ有シ、人間ハ何程蕃息シテモ働キサヘスレバ、恐ルルニ足ラズト、思ツタノデアル、故ニ支那ノ學者ハ、社會ニ貧民ノ多クシテ、日々ノ生活ニ困難シツツアルハ、世ノ父母タルモノノ責任ニアラスシテ、政治ガ其ノ宜シキヲ得ザルノ、結果トシタノデアル、爲政家ガ昔ノ王制ノ旨意ヲ實行シテ民産ヲ均クスルコト能ハザルノ、過トナシタルノデアル、民産ヲ齊クシテ農事ヲ怠ラシメザレバ、貧民ハ跡ヲ絶チ、人多クシテ益々繁昌スベシト、信ジテ居ツタモノデアアル、明ノ徐光啓ノ如キハ、其ノ著「農政全書」ニ於テ、「生人之率、大抵三十年而加<sub>ニ</sub>一倍、自<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>有大兵革、則不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>減」ト云ヒ、人口ハ大戦争アルニアラザレバ、凡ソ三十年ニシテ一倍スト云フノ説デアツテ、まるざるト殆ト符節ヲ合スルガ如キ意見ヲ述ベタリト雖モ (まるざるハふらんくりんノ説ニ基キ

二十五年ニシテ一倍ストナセリ)、人口過多ノ患ヲ説キテ、食料ノ缺乏スベキヲ悲觀シタルハ、淺學ナル私ノ、未タ晉ヲ聞知セザル所デアル。

支那ノ事ハ先ツ此位ニ致シマシテ、是レヨリバ我日本ノ事ヲ御話シ致シマスルガ、日本ニ於キマシテモ、矢張り支那ノ王道論ト、朝政論トノ如キ、二ツノ區別ガアツテ、其ノ一ハ神道ノ人口論ト、他ノ一ツハ封建ノ人口論デアル。

神道ノ人口論ハ、人民ノ蕃息シ萬物ノ豐熟スルハ、祖宗ノ神意ニ適ヘルモノトスルノ説デアツテ、所謂ル天地化育ノ理ハ、生々已マザルモノニシテ、産靈ノ神ノ妙工ナリトスルノデアアル、斯クノ如キハ、國學者流ノ皆一般ニ唱道スル所ナルガ、之ヲ經濟上ニ適用シテ、最モ詳ニ論述シタルモノハ、例ノ佐藤信淵デアアル、信淵ハ諸君方ノ御存ジノ通り、平田篤胤ニ私淑シタル人デアリマシテ、彼ガ人口論ハ、専ラ國學者流ノ思想ニ淵源スルモノニシテ、其ノ説ノ要旨ハ、彼ガ得意ノ著作「鎔造化育論」ト稱スル漢文ノムツカシキ書物ニ記シアリテ、其ノ大意ハ、「皇祖天神、欲<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>蒼生<sub>一</sub>蕃息<sub>也</sub>也極篤<sub>矣</sub>、……………故濃<sub>ニ</sub>厚陰陽相感<sub>之情</sub>、而深<sub>ニ</sub>切牝牡交接<sub>之歡</sub>……………卽是元運之所<sub>ニ</sub>催促<sub>一</sub>而悉<sub>皆</sub>係<sub>乎</sub>産靈<sub>之蒙</sub>、……………故人之爲<sub>ニ</sub>産育<sub>一</sub>、總是天工、豈其人力之所<sub>レ</sub>能哉」ト云フガ如キ論法ヲ以テ、人間ノ子孫ヲ蕃息スルハ、産靈ノ神意デアルガ故ニ、人力ニ依テ之ヲドウスルコトモ出來ズ、其ノ生レ出デタル多數ノ子孫ヲ充分ニ養育スルガ、我々ノ祖先ニ對スル重大ノ義務デアルト斷定シ、此ノ義務ヲ遂行スルニハ、農功ヲ勵ムベシ、農事怠ラザレバ饑餓ノ患ナシトスルノ結論ニ到着スルノデアアル、故ニ彼ノ國學者流ノ人口論ハ、支那ノ經學者ノ説ノ如ク、深ク推理シ

タルモノニアラズ、矢張漠然ト神意ナドト唱ヘテ、假定ノ空想ヨリ立論シタルモノデアル、卽チ約言スレバ、此等ノ人口論ハ、我國太古ノ傳説の神話ニ、基因スルモノニ外ナラナイノデアル。

今一ツノ封建思想ヨリ割出シタル人口論ハ、支那ノ朝政論ニ基キタル説ト、全然其ノ論旨ヲ同ジクスルモノデアリマシテ、國家ノ見地ヨリ之ヲ觀察シ、其ノ富強ノ必要條件トシテ、多數人民ヲ要求シタノデアル、是レハ一朝事アリタル際ニ、軍役ニ出ヅル人員ノ減少セザル爲メト、又平時ハ農村ノ衰微ヲ來シテ、貢租ニ影響スル様ノコトアリテハ成ラヌト云フノ主意デアツテ、封建時代ノ政治經濟ヲ談ズル者ハ、皆此ノ二點(約シテ云ヘバ富強ノ二點)ヨリ、人口ノ蕃息ヲ獎勵シタモノデアル、荻生徂徠ノ著ハシタル「鈴録」ト云フ兵書ニ、前ニ述ベタル孔子ノ庶富教ノ事ヲ引キテ、「庶ハ衆庶ノ義ニテ、人數ノ多キ意ナリ、國ノ治メ方ハ、國中ニ人數ノ多キ様ニスルガ第一ナリ」ト説キ、又其ノ「政談」ニモ、人口ノ減少ハ、武士道ノ爲メニ、宜シカラズト云フノ主意ヲ述ヘテ居ルノデアル、然レドモ徳川時代ハ、太平久シク打續キ、人々皆安佚ニ慣レタレバ、世ハ封建ニシテ、何事モ悉ク軍事上ヨリ割出シタルニ拘ハラズ、幕府ヲ始メ、諸藩ノ財政ハ、非常ノ急迫ヲ告ゲ居タルヨリ、當時ノ人口論、卽チ人口ノ獎勵ヲ勉メタルハ、實際軍役ノ爲メト云ハンヨリハ、寧ロ農村衰頽シテ、貢租ノ額ガ年々減少シテ、府庫ノ匱乏ヲ來シツツアツタ事ガ、其ノ主要ノ原因デアツタノデアル、幕府ノ御觸書ニ「勘當、久離、帳外ノ儀ハ、一體輕カラザル儀ニテ、親族ノ血統ヲ絶ツニ至ルハ、兼テノ教育、宜シカラザルナレバ、倅又ハ厄介等、之レアルモノハ、勿論、村役人共、一同厚ク相心得、不實ノ儀無レ之様、常々意見ヲ加ヘ、一人タリトモ、其ノ



所ノ人員、相減セザル様、取計フベシ」トアルガ如キハ、其ノ目的トスル所、田畑ヲ荒ラサセ、貢租ノ額ヲ減ラサスマイト、シタルモノデアル、是レハ勿論徳川時代バカリデナク、ツツト古キ王朝時代ヨリ、代々ノ政治家ガ、深ク心配シツツアツタ問題デアツテ、昔ハ課戸課丁ナドト申シマシテ、稅ヲ取ルベキ戸口ノ減耗スルハ、當局者ノ最モ苦痛ヲ感シタル所デアル、而シテ徳川時代ニ至リテハ、世ノ中、段々奢侈ニ赴キ、中央政府ヲ始メ、諸藩十中ノ七八マデ、皆大ニ財政ノ困難ヲ訴へ、其ノ藩士等モ、亦隨テ知行ノ實收ヲ減少セラレ、上下共ニ窮乏ニ陥リテ、只管テ救濟ノ方法ニ腐心シ居タルモノデアル、故ニ此際農民ヲ増加シテ、少シニテモ田地ヲ荒廢セシメザル、彼等ノ最モ急トシタル所デアツテ、此ノ時代ノ學者ガ、人口ノ増殖ヲ以テ、國家繁榮ノ原因トナシ、大ニ其ノ獎勵ヲ主張シタル所以モ、亦此等ノ事實ニ歸因スルコト、少ナシト爲サザルガ如シ、現ニ當時ノ大名中、財政ノ救濟策トシテ、荒蕪地ノ開墾ニ從事シ、以テ其ノ府庫ノ充實ヲ計リタルモノアリテ、大ニ成功シ、六七萬石ノ大名ニシテ、十萬石以上ノ實收ヲ得ツツアツタ者スラ、之レナキニアラザリシカバ、此ノ目的ヲ達スルノ手段トシテ、人口ノ増殖ヲ企圖シタルハ、固ヨリ理由ナキニアラザルノデアル。

日本ノ人口論ハ、支那ノ人口論ト、大體總テ異ナツタコトハナイノデアツテ、多クハ皆まるざすノ説ニ反對ノ意見ヲ有シ、隨テまるざすノ反對者タルビゾのんノ説ニ酷似シテ居ルハ、寧ロ當然ノ次第デアル、まるざすノ最初ノ意見ニ依レバ、現在ノ社會ニ於ケル貧民ノ慘狀ハ、自然ノ避ク可ラザル法則、即チ人口ノ蕃殖ガ、食料ノ増加ニ超過スル、不得已ノ結果ナリトスルノデア

リタルモ、じどゐんハ之ニ反シ、人間ノ貧窮ニ沈淪スルモノ多キハ、現在ノ社會制度ノ不完全ナルニ由ルモノナレバ、政治ヲ改良シ、社會ヲ善クスレバ、貧民ハ次第ニ減少スベシト云フノ意見デアツテ、斯クノ如キ意見ハ、日本ニ於テモ、支那ニ於テモ、皆異口同音ニ主張シタルモノデアール、徳川時代、農村一般ニ貧窮ヲ極メ、百姓ノ多クハ、其ノ田畑ヲ棄テテ、都會ヘ流込ミ、年々歳々、荒蕪地ハ増加スルノミニシテ、浮浪遊民ノ輩、都會ノ地ニ群聚スルハ、全ク惡政ノ結果デアルト云フコトハ、蕃山、徂徠、宣長等、皆頻リニ唱導シタル所デアール、支那學者ガ、古井田ノ遺意ヲ消滅シ、人々其ノ恆産ヲ失ツテヨリ、貧民天下ニ充溢スルニ至リシコトヲ痛嘆スルモ、必竟其ノ原因ハ、近世ノ政治ガ惡クナツタ爲メデアルト云フニ過ギナイノデアール、故ニ今日ノ社會ニ貧民ノ多イノハ、惡政治、惡制度ノ結果デアール、人口ノ多イ爲メノ結果ニアラズト云フコトハ、東洋ノ學說ノ要旨デアツテ、此ノ一點ハ、まるざす以前ノ西洋學說、及まるざすニ反對シタルじどゐん等ノ所論ト、全然一致シテ居ルノデアール、然レドモ茲ニ一步ヲ進メ、人口ハドコ迄増殖シテモ、收得遞減法ノ壓迫ヲ受クルコトナキカ、如何ト云フ問題ニ至リテハ、まるざす以前ノ學說ト同シク、東洋ノ學說ハ、未ダハツキト、明確ノ答ヲ與ヘタモノハナイ、否、與ヘヨウト企テタモノスラ、無カツタ様ニ思ハルルノデアール。

長州ノ儒者、山縣周南ハ、其著「爲學初問」ニ「世久シケレバ、人口増加シテ、物不足ト、人ハ云ヘド、サハ思ハレズ」ト云ヒ、又「治世ハ造化ノ氣旺ナル故、人類蕃昌スレバ、諸物モ同シク蕃昌シテ、人ノ養ヒ不足ナシ」ト云ヒ、夫レヨリ、又支那ノ人口ヲ論シテ「一町ノ田ニ生ル稻ノ

限リアル如ク、中華ノ地ニ生スル人モ、土地相應ノ限リアルト見ヘテ、古今ノ差ナシ」ト云ヘルガ如キハ、前ニ述ベタル程子ノ「人ト物ト相稱フ」ト云フノ説ヲ、敷衍シタルモノニシテ、コレハ一方ニ於テ、まるざすノ第二則タル收得遞減法ノ根本思想ヲ非認シ、又一方ニ於テハ、其ノ第一則タル、人間ノ生殖力ヲ非認スル様デアツテ、一種ノ卓説ラシク見ユルト雖モ、矢張結局ハ、貧窮ノ原因ヲ、政治上ニ歸シタル普通ノ説デアツテ、其證據ニハ、同ク「爲學初問」中ニ「禮樂ノ制度アレバ急ニハ困窮ニナラヌコトナリ」ト、云ヒ居ルヲ以テ明白デアル、之ヲ要スルニ、純然タル學說カラ觀察スレバ、一般絕對ニ收得遞減法ガ、實際ニ現ハルル時ガアルカ、無イカ、ノ問題ト、社會ノ進歩ガ、果シテ人間ノ生殖力ヲ、反比例ニ減ズルモノナルヤ否ヤガ、人口論上ノ主要ノ争點ナルベキモ、此等ノ事ハ多クハ農業化學、物理學、生理學、心理學等ニ關係ノ問題デアツテ、適當ニ所謂經濟學ノ範圍デナイ、西洋ニ人口論ヲ經濟學以外ノ問題ナリトスル學者アルハ、主トシテ之カ爲メデアル、然レドモソレハ別問題トシ、兎ニ角現在ノ所デハ、社會ニ貧民多キハ、人口過剰ノ爲メニアラズ、惡政治、惡制度ノ結果デアルト云ツタ方ガ、正シイカト信ズルノデアル、かめらりすと、ゆすちハ「歐洲ハ優ニ今日ノ人口ノ六倍ヲ容ルルノ餘地アリ」ト云ヘリ、是ハ今ヨリ百五十餘年前ノコトナレドモ今若シ歐洲ノミナラズ廣ク全世界ヲ平均シテ、之ヲ論ズルトキハ、社會ノ發達、科學ノ進歩ニ從ヒ、尙六倍十倍ハ愚カ、二十倍三十倍ニナツテモ、或ハ差支ナシト思ハル、惟タ要ハ富ノ分配ノ宜シキヲ得ルト否トニ歸スルノデアル、惡政治、惡制度ノ下ニ於テノミ貧窮問題カ起ルト云フハ、必ズシモ過去ニ於ケル、歴史上ノ現象ノミテナカラウト信ズルノデアル。

終ニ臨ミ、東洋ノ人口論ヲ評スルニ付、一ノ大ニ注意セザル可ラザルコトアリ、ソハ他ニアラズ、東洋ニ於テ戸口ト云フハ、今日ノ戸數人口トハ、全ク其ノ意味ヲ異ニシテ居ツテ、所謂ル課戸課丁ヲ云ヘル場合ガ多イノデアル、勿論書イタ人ニ依リ、書イテアル所ニ依リテ、時々其ノ意味ガ違ツテ居ルコトアルモ、通例ハ大抵皆課戸課丁ヲ指シタモノデアツテ、戸數何千、人口何萬ト稱シタルハ、惟ニ納稅若クハ兵役ノ義務アル戸口ノミヲ、云ツタモノニ過ナイノデ、全國中ノ總戸數、總人口ヲ指シタルモノニアラザレバ、古書ニ掲ゲタル戸口ノ數ハ、一向當アニナラス、無意味ノ計算カ多イノデアル、例ヘバ日本デ申シマスルト、浪人、出家、山伏、相撲、俳優、手品師、輕業師、其他ノ興行人、及穢多、非人、乞食ノ類ハ、何レモ戸口ノ外デアツテ、人口ノ計算中ニハ、入レナカツタモノデアリ、又或ル場合ニハ、王侯、貴人、侍ナドモ、除外シテ、人口中ニ算入セズ、又苴タシキハ、町人ナドモ、之ヲ遊民トシテ、除外シタモノモアル、勿論統計ノ立テ方、方式ナド、今日ノ如ク、比較的整頓シタルモノニアラズ、隨テ計算上ノ事ハ、東洋ノ昔ニ於テハ、全ク絶對ニ當テニナラナカツタモノデアアル、徂徠ハ僧侶ノ度牒ノ事(僧侶ノ戶籍)ヲヤカマシク云ヒ、享保頃ニ於ケル坊主ノ數ハ、山伏、巫蠱ノ徒ヲ合算スレバ、六七百萬人ニ上ルベシト云ツテ居ル、是レハホンノ概算デアツテ、固ヨリ精確ナル計算ニアラサルベキモ、今假リニ之ヲ事實トシ、此ノ上ニ更ラニ浪人、穢多、非人マデモ、悉皆戶籍外ノモノトシテ、之ヲ除外スルトキハ、當時所謂ル人口ナルモノハ、全ク無意味ノモノデアツテ、今日ノ人口論ニハ、何等ノ用モナキ空數字デアアル、然レトモ明治維新前ニ於テハ、政事ハ皆階級政治デアツテ、全國人民ニ、直接ノ關係モナケレバ、一

般ニ國勢調査ナドノ必要モナク、只ダ僅カニ坊主ハ夫レ夫レ寺ノ支配ニ屬シ、穢多非人ニハ、各々其ノ頭アツテ、大體ノ取締ニ任ジ、又儒者、浪人、諸興行師等ハ戶籍モナク、人別モナク、勝手ニ天下ヲ横行シテ居ツタモノデアル、然ルニ當時兵役ハ、專ラ武家武人ノ本職デアツテ、儒者以下天下ノ遊民ハ、總テ之ニ與カラザリジカバ、固ヨリ其ノ戶口ヲ調査スルノ必要モナク、又事實之ヲ調査スルコトハ、出來ナカツタノデアル、之ニ反シ、戶口ヲ知ラザル可ラザルノ必要アリタルハ、主トシテ納稅ノ義務ヲ負ヘル、農民ダケノコトデアツテ、其ノ外ハ總テ之ヲ度外ニ置イテ、顧ミナカツタモノデアル、故ニ當時人口ヲ人數ト云ヒ、民數ト云ヒ、又單ニ口ト云ツタ場合ニハ、大抵多クハ課丁課口ノミヲ云ツタモノデアル、即チ納稅ノ義務アル百姓バカリヲ云ツタモノアデル、勿論或ル場合ニ於テハ、總人口ヲ計算シテ、人口何千何百萬人ト、計上シタルコトナキニアラザルモ、ソレハ寧ロ甚タ稀レナル例外デアツテ、夫ノ學者達ガ、人數ヲフヤセ、民口ヲ多クセヨト主張シタノハ、重ニ農民ダケヲ、多クフヤセト云フコトデアル、反對ニ人民カ少ナイ、戶口カ乏シト云フノハ、矢張農民ノミノ缺乏ヲ意味スルノデアル、夫レ故ニ東洋ノ學者ガ、政事ガ惡イカラ、戶口ガ減少スルト云フ意味ハ、農民カ皆ナ其ノ本業ヲ棄テ、居村ヲ離散シテ、戶籍外ノモノトナリ、行衛モ分ラヌ様ニナルト云フノデアツテ、西洋ニ於ケル或ル一派ノ人々ガ唱フルガ如ク、惡政ノ結果、人民ノ生理上、心理上若クハ社會上ニ多大ノ影響ヲ及ボシテ、其ノ生殖力ヲ減少スルト云フガ如キ、深奥ノ學說トハ、稍々其ノ趣ヲ異ニシテ居ルノデアル、之ヲ要スルニ東洋ノ人口論、即チ戶口論ハ、財政政策及農業政策ノ上ヨリ、之ヲ看察シテ、農民ノ多キヲ國家繁榮ノ兆候トナシタル

ニ過ギナイノデアアル。

附記、岡熊臣ト云ヘル和學者ノ著ハセル「兵制新書」ト題スル書中ニ「海内古今口數増減ノ大體」ト稱スル一章アリ、コレハ日本王朝時代ノ人口ハ徳川時代ニ比スレバ、其ノ數頗フル多大ナリシト云ラ事ヲ論ジタルモノニテ、其ノ説必ズシモ悉ク信ズルニ足ラザルベキモ、其ノ中ニ「上公の制令行届かずして、所レ謂不稅無賦の田地帳外者のみ多くして、奮然が言にも、課丁之外不レ可ニ詳見」と云(僧奮然ガ宋ノ太宗ニ謁シテ日本ノ人口數ヲ奉答シタル言ナリ)延喜式の大帳に隱首、浮浪若干など擧られたる類あるにて推考ベシ、さる帳外者の幾千萬と云ことを知らず」ト云ヒ、又伊藤東涯ノ「制度通」ニ戸數ヲ基礎トシテ、人口ヲ計算シ「古ハ生齒甚少して戸口も多からざること是にて知るベシ」トアルヲ駁撃シテ「令制の戸と云は、今時の本百姓三四軒以上に准じて、一戸の内に其家の子などの口數は、殊に多く有し實地を辨へず、甚だ不精説にぞ有ける」ト云ヒ、又新井白石ノ「折燒く柴の記」ニ「今の世高百石の地に二百人は有まじ」ト述ベタルニ反對シ、熊臣ノ生國石見ノ事實ヲ引證シテ繁榮ノ地方ニ於テハ所謂遊民マデ合算スレバ勿論百石ニ二百人ヲ下ラザルベシト記シアルガ如キハ、徳川時代ニ於ケル人口ノ計算方ガ、甚ダ區々ニシテ信據シ難キ一證ナレバ、此ニ附記シテ讀者ノ參考ニ供ス。